

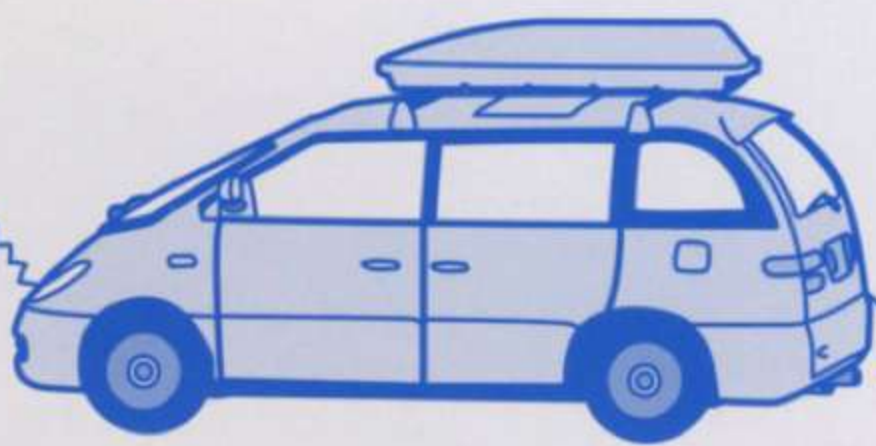


恋

彼女は
海を
見に行く

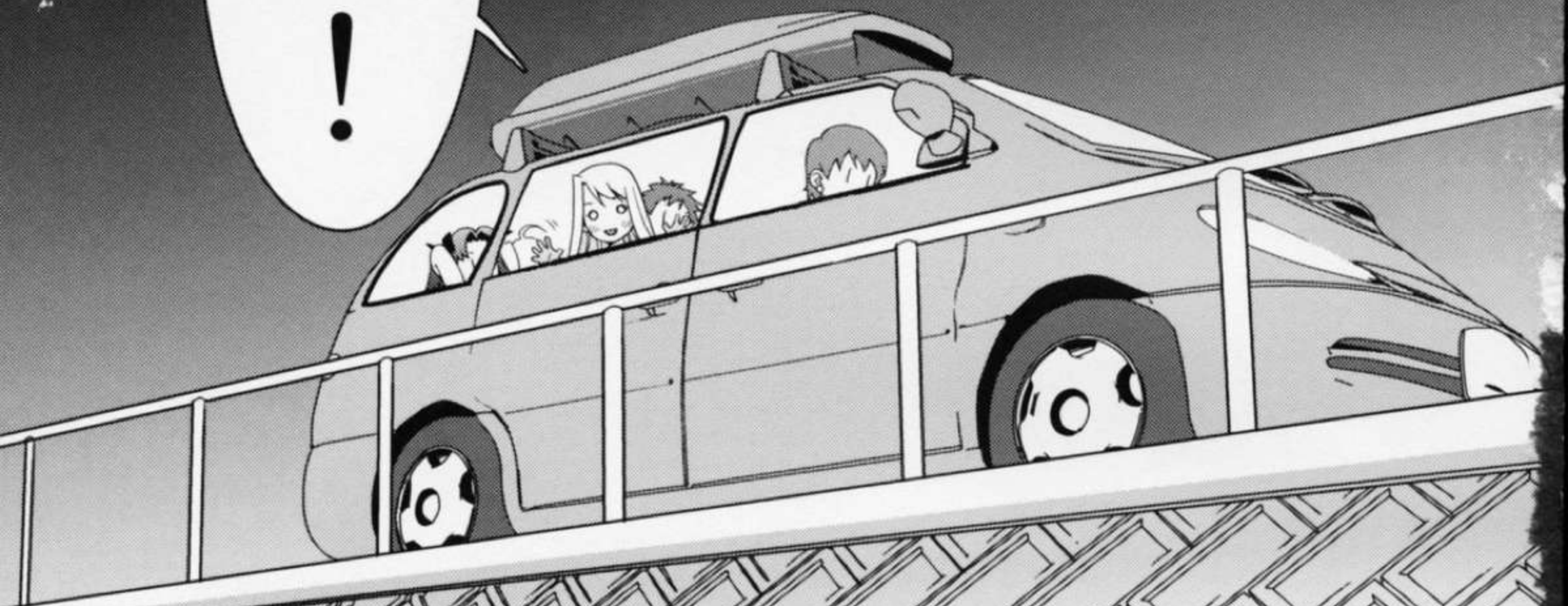
She goes to See the Sea

海
に
行
こ
う



She goes to See the Sea

わあ
海だ！



She goes to See the Sea

SSS

3泊4日で海にやって来た。

シロウが言い出して色々と計画したらしい。
タイガが困ったように、でも楽しそうに、あちこち駆け回っていた。

リンも「偶には羽目を外したっていいよね」と参加を表明。
サクラも「ライダーと一緒になら」と同行に同意。

きつとこういう事は、みんなでやった方が楽しいし。
これが切っ掛けで、もっとみんなと仲良くなれると思う。

泊まる所はタイガの家のものらしい。
プライベートビーチがあって、気兼ねなく遊べるそう。
海水浴場も近くにあって、その海の家のヤキソバが美味しいらしい。

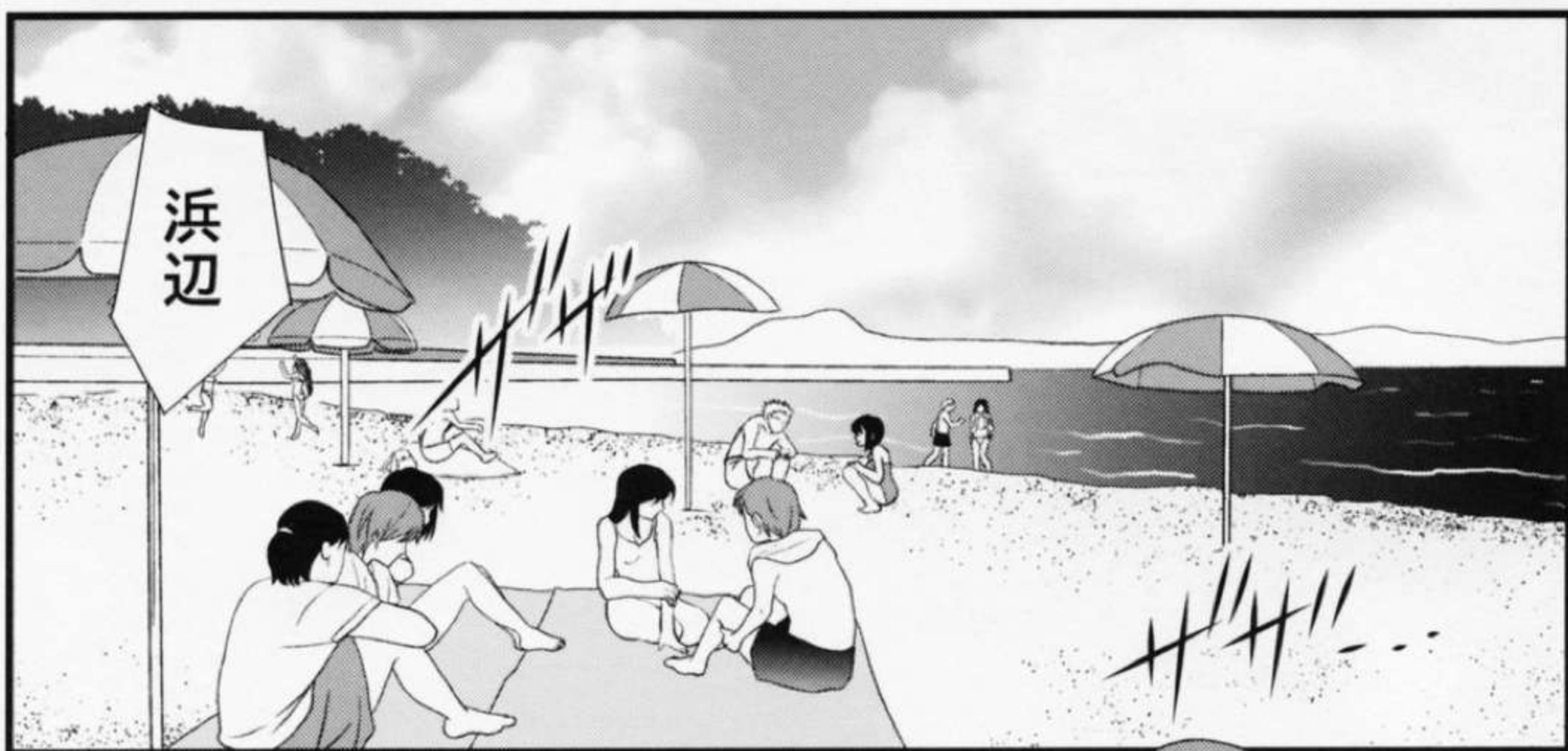
楽しみだな。

とても楽しくなる、予感。





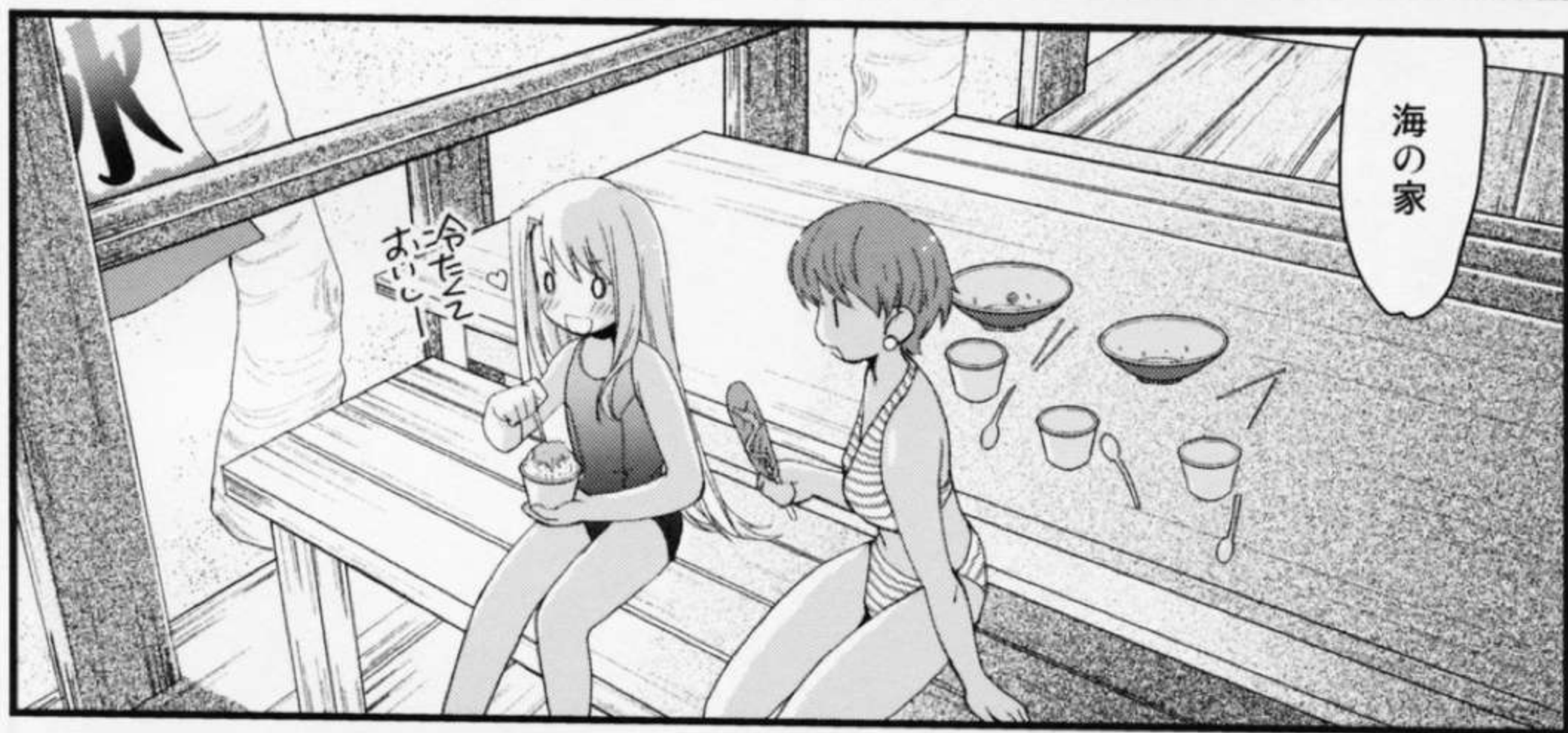
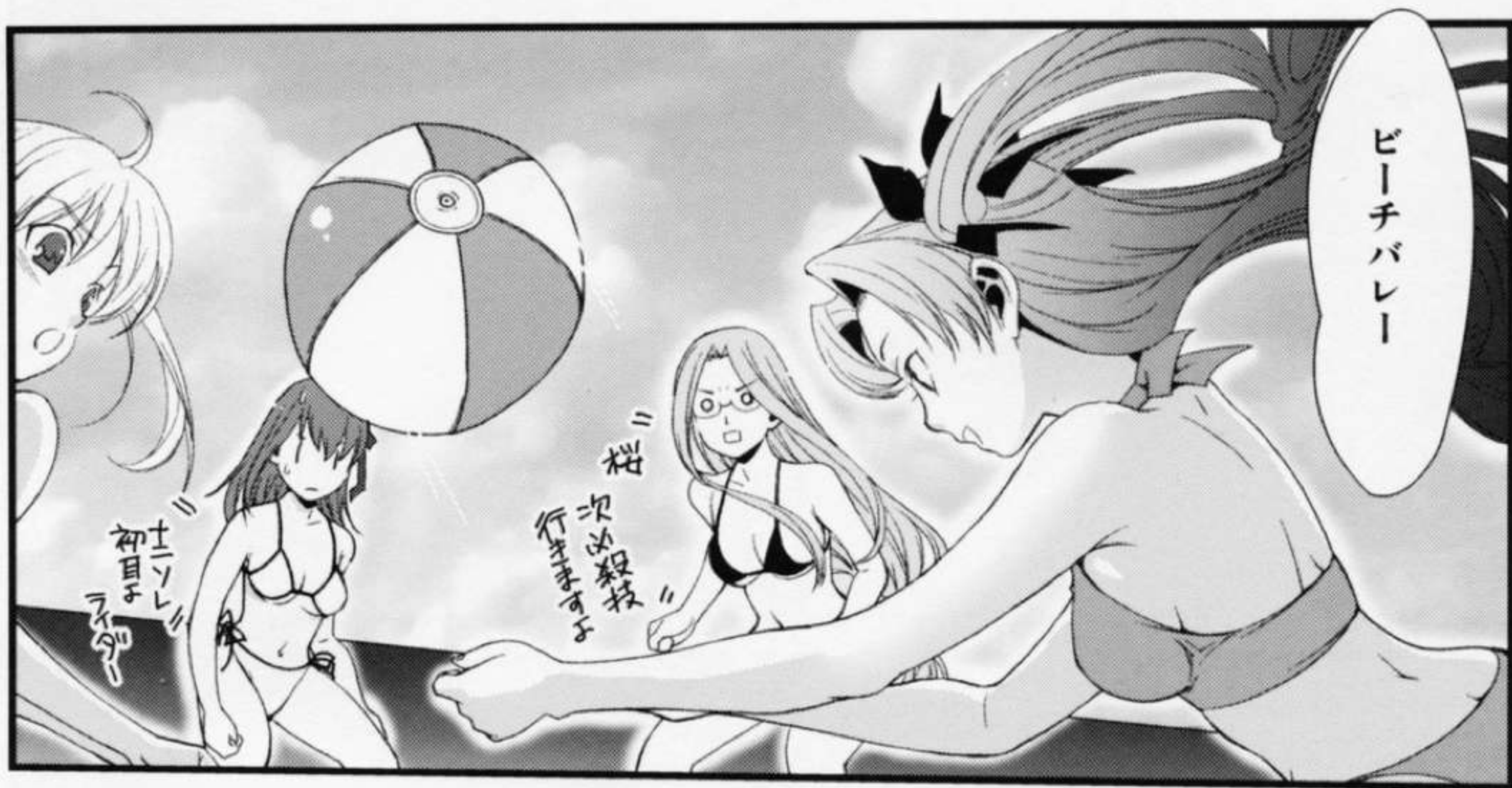
青い空



浜辺



これが海かあ...





楽しかった〜！

今日の一般的な海水浴場よ

明日はプライベートルームだから

貸しきり状態で遊べるわよ



色々驚くと思うけど

まあ…すぐ慣れるわ



へえ〜

それはそれで楽しそうだね



ふーん…？

まあ今晚は
私たちの番
です

皆にはゆつくり
休んで
もらいましょう

そうだね
でも…

先輩には今
頑張らなくて
もらわないと

先生は運転
姉さんは
イリヤさんのお相手…
随分疲れてましたね

はは…
時間はあ
るから
じつくりと



ん…

はあ…
舌を絡める
キスって
ドキドキします…



あ…
優しく
弄られてる…

桜の胸
柔らかくて
心地いいよ

ああ…
ライダーの舌が…

ロキヤ
ロキヤ

桜のここ…
可憐に淫靡に
濡れています

二人が
一緒に愛して
くれるから…

すごく幸せで
気持ち良いです…



ロキヤ
ビキキ



やあ…
乳首そんなに
されたら

はよ

身体中
熱く敏感に
なっちゃいます…

はよ

はよ



桜…
こういうのどう？

キョッ

キョッ



ひあっ!

キョッ



それでは桜…
クリトリスは？



はあああああっ!

ふふ…
愛液が沢山
出てきました





桜の舌って
ライダーより
柔らかいの
かもな...

先輩のお尻
可愛いです...

くっ...
舌が中
に入っ
てくる...

んふ...



ああ...
さく...ら...
凄く...感じるよ...

先輩...
気持ち
良さそう
で嬉しい...

でも
私も...

桜の方が
貴方への想
いが深
いですか
ら

行為も
情熱的
ですね



ライダーの
舌使いも
凄い...

くっ!

ん...

(貴方の事は
結構気に入
ってるの
ですよ...)







いやあああああっ!?

くっ……
凄い
締め付けた……

あぁああ……

はっ
はっ



土郎……
こちらに
出してください

私の中に……
零れないよう
一番奥で……

よし
分かった……

よっ……

ちゅぽん……



ええ…
その調子です

くうっ……



ふう…
出切ったかな

そうですね…
結構な量が入って来ました



ああ…
クリトリスが
刺激されながら

精液が
吸い出される…
とても感じますね

精液吸ったら
愛液もいっぱい
出てきたよ…



どうぞ…



それでは…

桜…
お待たせしました







…ん？
何だろ…

な…
何これ…？
そん…な…



みんな
裸で…

やだっ…



…ん
ジュース
飲み過ぎちゃった…

ズ
ズ
ズ

いっばい
出たなあ…



私はもう少し
桜を攻めようと
思います

そうか…
じゃあ俺は
少し休憩する



…いえ

何でも
ありません

ん？
どうしたライダー

あれから…

頭の中が真っ白のまま
部屋に戻り
意識を失ったかのように
ベッドに倒れ込み

気がつけば
いつの間にか
明け方だったか

眠ったのか
眠ってないのか
分からないのかさえ



目の前で
行われて
行われて
紛れもない
現実



シロウが。
サクラとライダーと。

セックスをしていた。

わたしだって、その行為は知っている。
性を基本とした魔術も、理論は知ってる。

でも、あれは。
そんなものとは全く違う。

男と女。
セックス。

激しく交わり合い。
心から求め合う。
その行為を目の当たりにして。
わたしは総毛立っていた。
寒気が全身を走った。

みんな、わたしに見せた事のない顔をしてる。
イヤらしくて、でも幸せそうで楽しそうで。

…ふと思い当たる事がある。
タイガ。

わたしがタイガの家でお世話をしたりした頃。
タイガが一人でしていたのを見てしまった。
きっと男を知らないのだろうと思わせるような。
秘めやかな行為だった。

わたしだって一人でした事がある。
リスやセラと求め合った事もある。
じゃれあうように。

けれど。
最近見た時のタイガは、以前とは違っていた。
行為の激しさが。
セックスの道具を出し入れさせていたのだ。
ああ、男を知ったんだな…
その時はその程度の認識しかなかった。
相手は同僚なのか誰なのか。
いずれ相手を白状させてやるうと思った程度だ。

けれど、考えてみれば。
タイガの身の周りで、一番可能性があるのは。

「シロウ…なの？」

全裸っ!



「ふああああ……何よりりや…随分早いじゃない」
この眠そう声は、タリガか…と振り返り、目を疑う。

「ねえタリガ」
「何よ」
「…何で、裸なの」

そう、タリガは、水着も、下着も、タオルで隠す事も無く、

素っ裸だった。

「何でって…言ったじゃない、ここはプライベートビーチだって」
いや、それは確かに言っていたけど、
「それなのに、邪魔な物を着る必要はないじゃない?」

…そういうものだろうか。
「そういうものかしら?」
「そういうものよ」
そういうものらしかった。

「ふああああ……何よ二人とも…随分早いじゃない」
タリガと同じように眠そう調子でやって来たリンは、

同じように素っ裸だった。

「おはようございます大河、りりやスフーール」
一人すっきりとした調子のセリバーは、

でもやっぱり素っ裸だった。

混乱は収まった。
と同時に、思考は止まった。





ふと、リンとセリバーを見遣る。
見慣れた二人の見慣れない裸は、新鮮だった。
タリガとは、普段から一緒にお風呂に入ってるんだけど。

スレンダーで、無駄な肉が全くないセリバー。
見るからに華奢で、「最強」という称号とは全く無縁に見える。
陰毛は、その身体に見合った、薄めの鬍りだった。
可愛いな、と素直に思った。

リンは、多分年相応の身体なのだろう。
適度に膨らんだ胸、女の子らしい茂み。
普段、ぜい肉がどうこう言ってる割に、細めの身体。
…すこし、羨ましい。

タリガだって、歳よりもずっと若くて可愛い。
彼氏の一人や二人いたっておかしくないくらい…

とか思ってたら、リンがいきなり何事か言い出した。
「ねぇ、タリヤも脱いじゃいなさいよ」
「な、何言ってるのよリン！」
「そうだそうだー脱げー」
「あんたは子供ですかタリガ…」
「でも折角こういう機会ですから」
「…セリバーまでそういう事言うの？」

タリガ…そして。

「おはようタリヤ、みんな」
裸のシロウがやって来た。

その瞬間、自分の中で、全てがストーンと墜ちて落ちた。

「ねぇシロウ」
わたしは言った。
少しパンツを下げて。
スカートをたくし上げながら。

「服…脱がせて」

シロウは一瞬キョトンとし、そして笑顔で頷いてくれた。



丁寧に、ゆっくりと優しく、
少しずつ腕がされていく。
ドキドキして、胸がいつかおこる。
手の先にザワザワ感が走る。

シロウと目が合った。
身体の奥が熱くなって…
(あう…多分濡れちゃってる…)

「ねえシロウ…昨日、サクラとラリサーと…してるの見たんだ」
思い切って言う。
アキマ、その感じのタリガとリン。
「で…どう思った？」
シロウが聞いてきた。
「うん…シヨククだったよ、かぶり」
「そりやそうか」
「そりやそうだよ。」

「それで…タリガとモリンとモセリバーとモ…してるんでしょ？」
核心に近づく。

「…うん、してる」
だよね。
この状況を見て、分からない方がおかしい。

そして、いちばん聞きたかった事。
「どうして…わたしにけしなかったの？」
不意に目頭が熱くなる。
「子供にけしなかったから？ 仲間外れにしたかった？」

シロウは苦笑いしながら首を横に振った。
「タリマとは…初めて一緒に垂る海で結ばれたかったんだよ」

……そうだ…
元々、海に垂ようと計画を立てたのはシロウだった。

だとすれば、
確かに、シロウがわたしを抱くつもりだったんだ。

「あ、でも、もしタリマが嫌じゃなかったらだけど…」
この期に及んで、何を言うんだろうこの鈍感男は。
まあ、だからこそシロウだけど。

だからこそ、言っておける。

「仕方ないな、シロウがそんなに欲しいわたしを欲しいんやら…」
飛びついて抱きしめる。

「わたしの初めて、シロウにあげるね！」





えっちな
感じで
好き♡

舌を絡ませるの
すごいね…

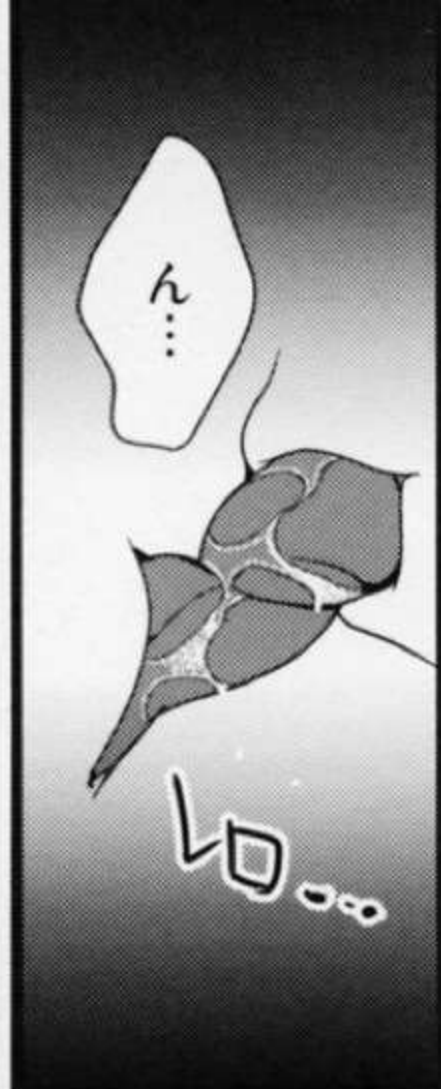


ハハハ

ハハハ

んん…

トロロ



ん…

トロロ



ひゃあ?
く…くすぐったい



おっぱいは
どんな感じ?



こっちは?

あ…ん…

こっちは
気持ちいいの…

意外と
エッチだな…

そうだよ…

女なんだもん





ん…は…
入ってきた…



来て…

シロウが
私を大人に
してくれるの

すごく
嬉しいから…



大丈夫？

ちよっと
大きかった
かな…

うん…
意外と平気だよ



ん…
でもやっぱり
血は出ちゃったか

ズ
ル
ル
ル
ル

そうだね…

はあ

はあ

はあ

それでも…

シロウがしてくれてた…
それが嬉しいんだよ



ん…

これが
イリヤの
味なんだな…



舐めて…

シロウ…

ネット…



ネット…

あ…
これが初めての
証なんだね…



うん…

キス…
しようよ



シロウ…
大好きだよ♡

俺もだよ
イリヤ…

あ…シロウのが
大きくなってきた

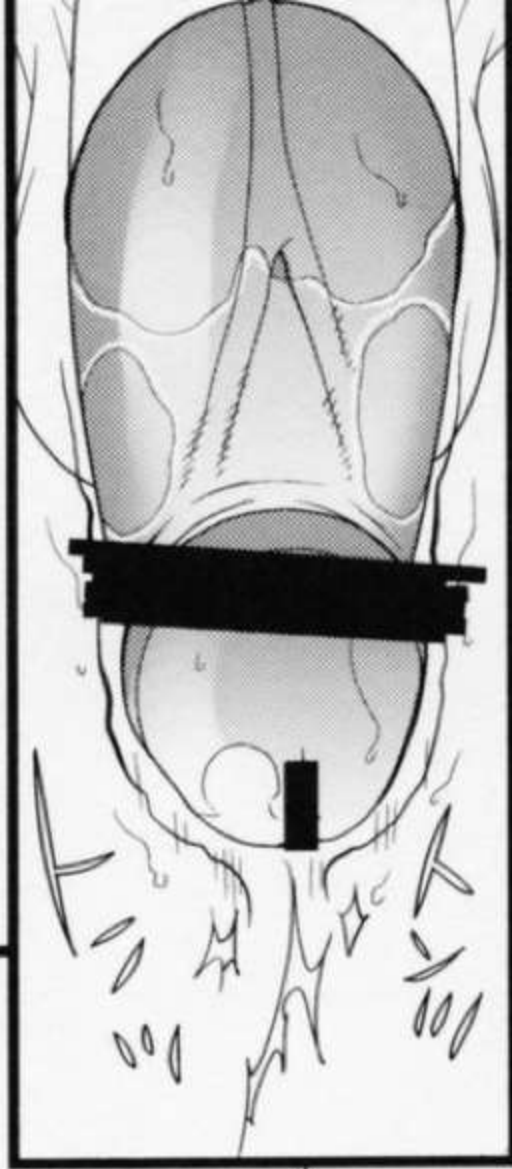
繋がれたのが
嬉しくて…
気持ち良くな
ったからだだよ

そっか…
わたしも
嬉しいな♡

グ
グ
グ
グ
グ



田中さん...!



あ...
はあああああっ!!

出てる...
出てるよお...



ふう…
昂ってたせいか
沢山出たな…



はあ……
ピューピューって
5回くらい
お腹の奥に
出てるのが
分かったよ…



すっ…
ほんな
ホーダ…

あっ…
ニッキ…

ライダー
もっ…

あっ…
気持…



えっ？

みんなの声
何だか…

ええっ!?



先生のだって
綺麗ですよ♡

凜のも…
可憐で
惹かれます…

ちゅ



セイバーちゃんの
ここは
本当可愛いわね…♡

っ



ああ…
乳首いいよお

ちゅ

ちゅ



まあ…
こうなる事は
予想してたけどな
しし

みんな…
えっちなだね

…ねえシロウ
わたし達も
もっ♡

了解!

はっ

はっ

あん

あ

あ

その後みんなに…
寄って集って
代わる代わる
愛され攻められ弄られて

みんなと
何度もキスをして

全身撫でられて
お返しに撫でて

身体中舐められて
沢山舐め返して

くたくたに
なるまで

トロトロと
蕩け合うように
愛し合った

のだった

これからは
わたしも
みんなの
仲間入り…

楽しみだな

ふふ

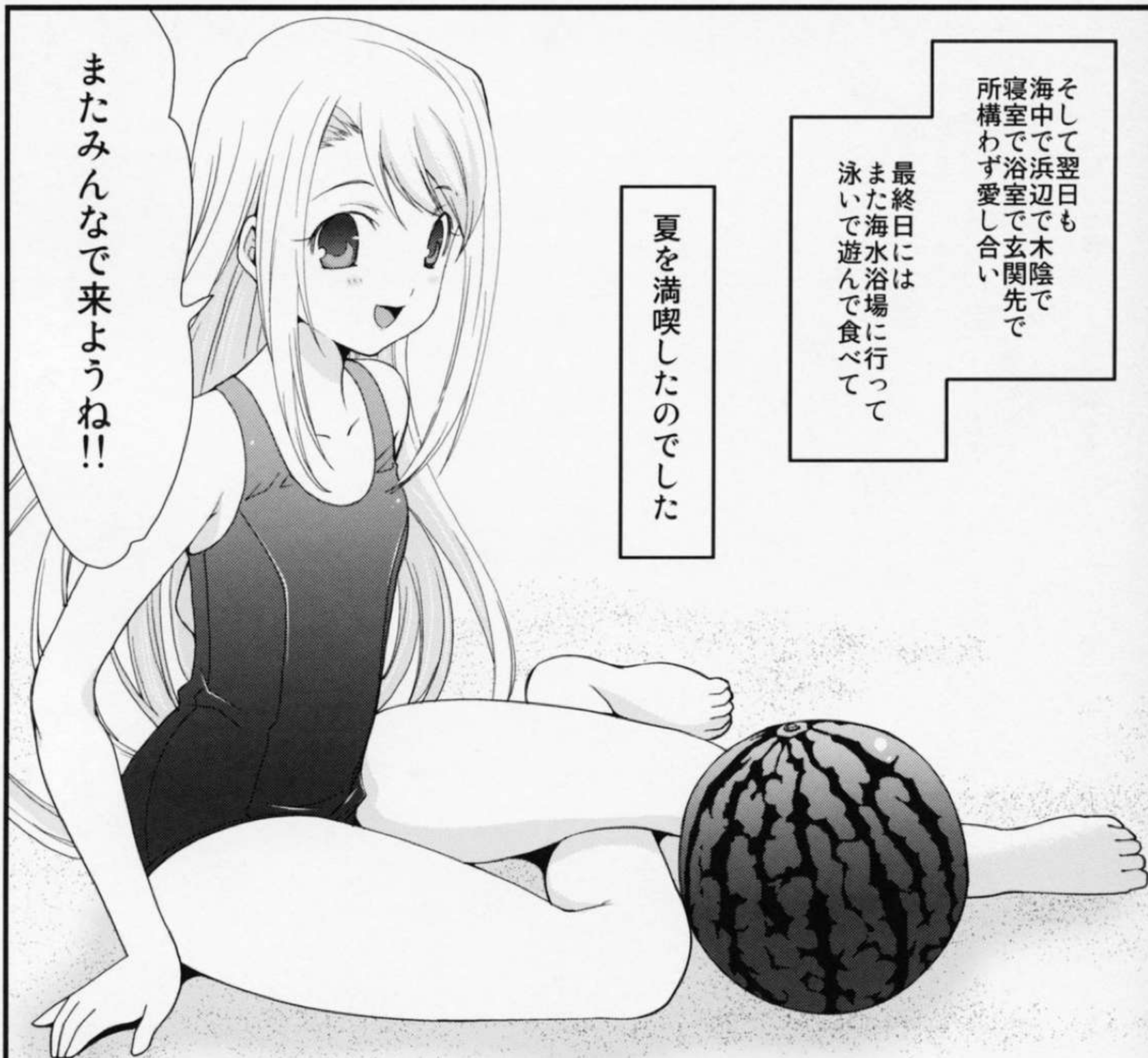


そして翌日も
海中で浜辺で木陰で
寝室で浴室で玄関先で
所構わず愛し合い

最終日には
また海水浴場に行って
泳いで遊んで食べて

夏を満喫したのでした

またみんなで来ようね!!



後記

読んでいただきまして有り難うございました。

今年はとても暑い夏ですね！
原稿中もへろへろになりながら作業してました。
その分、漫画も夏っぽくなくなれば良いのですが、
いかがだったでしょうか。

何となく去年の夏の本の続きっぽいですが。
完全に続きという訳でもなく。
一部だけ設定を引き継いだだけの、別物と思っていただければ。
まあ、ノリで楽しんでください。

今話題は、何と云っても「hollow」ですね！
今か今かと待ち侘びています。
楽しみだ！

プレイしたら、きっと色々新情報が入ってて。
色々本とか作りたくなるだろうなあ…
エロエロとしたくなるだろうなあ…
楽しみだ！

Fate も、もう何度もプレイをしてきて。
キャラやシナリオの捉え方がどんどん変わってきてますね。
何年経っても、未だにそう思います。

hollow でまた色々変わるのかな。
本当に楽しみです。

それでは、また次の本でお会いできれば嬉しいです。

She goes to See the Sea

発行 恋愛漫画家

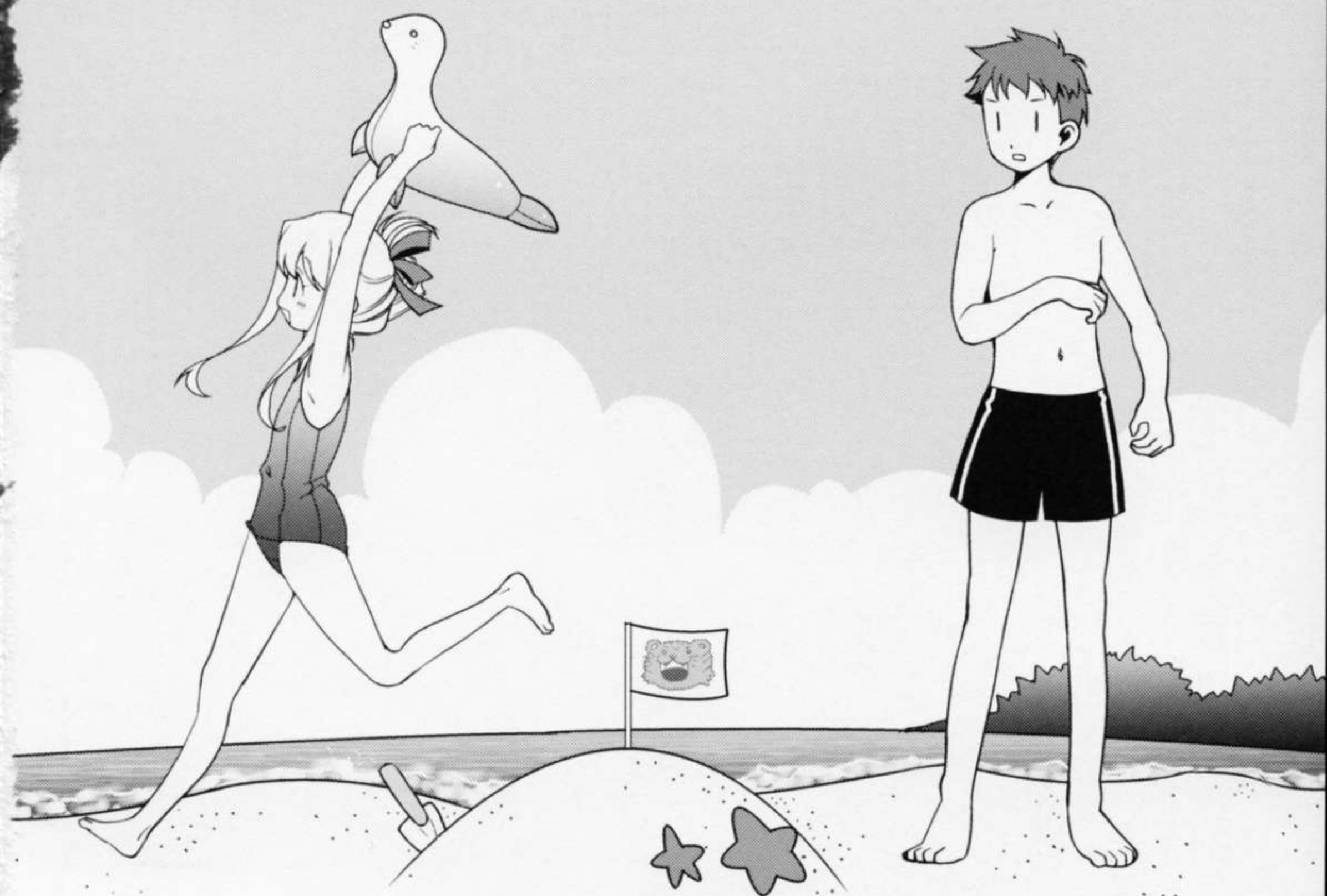
発行者 鳴瀬ひろふみ

発行日 2005. 8. 14

印刷所 Power Print

連絡先 hironasu@mud.biglobe.ne.jp

HP <http://www.renai-manga.com/>



She goes to See the Sea

「シロウ
来年もまた
海に来たいな」



